

NGO等向け基礎から始める国際協力事業研修

個別相談 取扱い内容例

本個別相談は、「NGO等向け基礎からはじめる国際協力事業研修」の一部です。同研修の事業マネジメントコース計画・立案編、モニタリング・評価編、現地調査実践研修準備編、立案編の内容を踏まえ、講師が個別案件に対して課題整理・アドバイスを行います。同研修に含まれない観点からのご相談はお受けすることができませんので、予めご理解ください。なお想定する相談内容は以下リストの通りとなり、案件診断を踏まえ、個別状況に応じた適切なメニューをご提示いたします。研修実施後1ヶ月を目途に、1団体につき10回(1回あたり90分)を上限に個別相談を実施いたします。

□事業構想の整理 (めやすの個別相談回数 1回)
アイデア段階の構想から、その後事業計画策定までにどのようなステップがあるかを整理する作業を、対話やアイデアの可視化を通じてサポートします。
□現地調査準備 (2～3回)
草の根技術協力事業を計画する前に現地を訪問し調査を行いたい団体に対し、計画書の添削やアドバイスを行い、重要情報を取り忘れることがないようサポートします。(事前に同研修の現地調査実践研修講義ビデオをご覧いただくことをお勧めします)
□関係者分析 (1回)
プロジェクトを計画するにあたりどのような関係者について調べるべきか、あるいはどの程度まで詳しく知ることが必要かアドバイスし、情報収集の準備を手伝います。
□ロジック整理 (1～2回)
受益者となる人が抱える問題や、プロジェクトで実現したい事柄を論理的に整理し、事業の活動から目標達成への道筋を、第三者から見ても分かりやすいものにすることをサポートします。
□プロジェクトの要約文言整理 (1回)
プロジェクト目標や活動といったプロジェクト計画の骨子とも言える部分の文言が、第三者にも伝わりやすく分かりやすいものに書き換えることをサポートします。
□指標の書き出し (1回)
プロジェクト目標に付ける指標が目標を適切に表現できていること、妥当な高さに設定されていること、データの入手が可能であることを確かめ、意味のある目標管理ができるようになることをサポートします。
□WBSの作成 (1～3回)
WBSは事業の実施に必要な詳細計画です。詳細計画ができなければ、業務従事者配置計画や予算の積算ができません。採択後、契約前の草の根実施団体に対し、リアリティを持った詳細計画を立てることを支援します。
□軌道修正 (1回)
事業実施フェーズの途中に生じた課題や、特定の難易度が高い業務について、特に第三者の意見を取り入れながら慎重に対応策を練りたい際に、第三者としてアドバイスをします。
□事業計画の修正 (1～3回)
事業実施フェーズの途中に、大きな計画変更が必要と分かっているものの、何を軸に変更案を考えればよいか分からずガイドが必要な方へ、アドバイスを行います。
□事業の評価
事業実施フェーズも半ばを過ぎて、評価について前広に準備しておきたい。モニタリング評価編で評価項目について勉強し自分でドラフトしてみるが、それが評価専門家から見て妥当なものになっているかをチェックしてもらいたい場合、評価専門家がアドバイスします。(事前に同研修のモニタリング評価編へご参加いただくことをお勧めします)